



TITLE:

アモルファス(サブゼミ,サブゼミの
報告,1985年度物性若手夏の学校報
告)

AUTHOR(S):

亀山, 奈美

CITATION:

亀山, 奈美. アモルファス(サブゼミ,サブゼミの報告,1985年度物性若手夏の学校報告). 物性研究 1986, 46(3): 343-344

ISSUE DATE:

1986-06-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/92065>

RIGHT:

サブゼミ 「光物性」

世話人 東北大・理 武田 淳, 河原田美穂

今回の光物性のサブゼミは、講師に東大(工)の十倉好紀先生を迎え、「有機半導体・分子性結晶の光物性」というテーマで行いました。また、発表者として、東大(理)の吉沢雅幸さん、横浜国大(工)の春木美華子さん、そして河原田美穂さんに、それぞれがなさっている研究について発表していただきました。

サブゼミは2日間行なわれましたが、その日の前半に十倉先生の講義、後半に発表者の方の発表と、参加者の方にあきがないように配慮したつもりです。

また、光物性サブゼミへの参加人数は、1日目が40～50人、2日目が30～35人程度だったと思います。

先生の講義および発表者の発表はOHPを用いて行ない、また、参加者の方の講義への理解を深めるために、あらかじめ各人にレジメを作っていただき、当日配布致しました。しかし、レジメは、もう少し前に参加者に配布すべきだったのではないかと考えています。十倉先生の講義は、初学者にもわかりやすく、また、有機半導体の応用面、これからの展望などを含めて多岐にわたるもので、大変勉強になりました。また、発表者の方の発表も、大変すばらしいものでした。

講師の方、発表者の方の決定及びテキストにのせる原稿の依頼などに対し、連絡が遅れるなど、十倉先生をはじめ、発表者の方、サブゼミ担当の堀江さんには大変ご迷惑をおかけしましたが、皆様のご協力のおかげでなかなか盛況なサブゼミとなりました。ここに感謝の意を表します。私にとりまして、同じ研究分野の方との親睦を深めることができ、大変有意義なものでした。

サブゼミ 「アモルファス」

世話人 亀 山 奈 美

近年のアモルファス物質の研究の発展はめざましく、その物性の多くが明らかにされています。けれどもその研究は、細分化されアモルファス物質の全体を見渡すことは不可能なことになってきているのです。それで今回のサブゼミは、アモルファスの全体像をつかもうという目的で行ないました。タイトルは、アモルファス物質の電子状態についてです。サブゼミアモル

ファスの講義は、7月29日、30日の2日間でした。

1日目は、東大理学部の村山和郎先生にアモルファス半導体の電子構造の基本的なところから、今村山先生が研究なさっているところまでを講義していただきました。村山先生は、たいへん丁寧に講義して下さいましたのでアモルファス物質を専門に研究している人の間では好評でした。が、アモルファス物質が専門でない人のなかには、「わからない単語がたくさんでてきてよくわからなかった。」などと言っている人がいました。

2日目は、北大理学部横澤宏一さんにスピングラスについて、東大物性研の吉田美穂子さんにアモルファスSi:Hについて、広大工学部の宮崎誠一さんにアモルファス超格子についてお話していただきました。発表者の方々もみなさん基本的な話から今なさっている研究をわかりやすく説明して下さいました。

それから、サブゼミの講義中、2日間とも活発なディスカッションができました。これは、村山先生や発表者の方々がわかりやすく講義して下さいましたからだと思います。心から村山先生と発表者の方々に感謝いたします。

今回のアモルファスのサブゼミは成功したと思っていますが、ただ1つ残念だったことは、サブゼミのコンパに出席された方が受講者に比べて非常に少なかったということです。けれど、ささやかながら楽しいコンパが楽しめました。

サブゼミ 「磁性」

講 師 元 屋 清一郎（埼玉大・理）

発表者 小 林 寿 夫（東北大・金研）

川 越 毅（早大・理工）

参加者 約30名

内容

29日 前半 元屋清一郎「磁性－中性子散乱」PART I

後半 川越 毅「磁性体の電気磁気効果」

30日 前半 元屋清一郎「磁性－中性子散乱」PART II

後半 小林 寿夫「Fe－Zn－B系非晶質金属の磁性」

元屋先生には、今回「中性子散乱」というテーマでお話をしていただきました。中性子による実験について広い範囲にわたり、分かりやすく、他の磁性分野の人にとっても興味深いもの